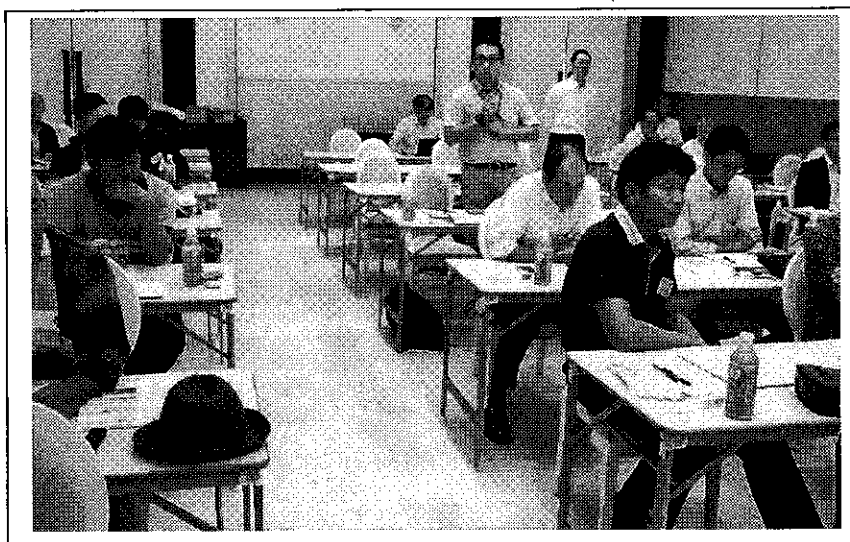
# 第12回エース会交流会開く

## 7月25日に熊本市で
### 星野熊本研究農場長が講演
### 日本農業の現状と品種改良

三菱ケミカルアグリドリーム㈱西日本オフィス（福岡市博多区上川端町）主催の第12回エース会九州交流会は、7月25日、熊本市中央区水道町14―1、ホテルメルパルク熊本の2階「金峰」において開催された。


酷暑の中で開催された第12回エース会のもよう

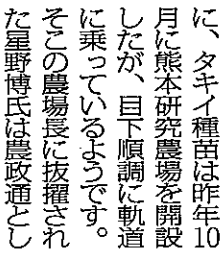
挨拶する上村会長

会は三菱ケミカルアグリドリーム西日本オフィスの鈴木親久氏の司会により定刻14時に開会された。

この日は酷暑にもかかわらず、出席した会員はトマト、イチゴ、ニラ、ブドウの生産者と九州の同社販売店およびタキイ種苗㈱、㈱サカタのタネ、カネコ種苗㈱、丸善薬品産業㈱、菱樹商事㈱の代理店などであった。

九州エース会会長の上村英利氏（八代市・トマト）が次のように挨拶した。「本日は猛烈に暑い中をご参加下さいましてありがとうございます。心から歓迎致します。本会は九州地区で施設園芸に取り組んでいられる方々を中心に組織している会で、今回が12回目であります。途中で台風とかち合ったため中止したこともあり、取っていただきましたことと、エース会では恒例になっている栽培上の課題について情報交換会が予定されていますので何卒ご協力下さいますことをお願いして、私の挨拶と致します」

続いて、主催者の三菱ケミカルアグリドリーム西日本オフィス長の坂本道彦氏が、「皆さん今日は大変お暑い中をエース会九州交流会にご参集賜り、ありがとうございます。毎回申し上げておりますけれども、エース会は皆様のお役に立てるようにということで活動を行っております。昨年の会で10月に開設する熊本研究農場の星野農場さんをお招きして日本農業と品種改良の講演をお願いすることをお約束しておりましたが、本日それが実現できました。なお、このほかに皆様方の体験したことや資材に対する要望などをお聞かせいただきたいと思っております。会員はトマトが断然多いですけれども、それに次いでイチゴが最近伸びています。私はエース会でよく勉強させてもらっておりますが、イチゴもさらに有望と考えますので、大いに研究するべき作目ではないでしょうか。皆様と一緒に研究するという意味をこめて、せっかくのご指名ですから、お引き受けすることに致します」と語った。


坂本道彦氏

坂本西日本オフィス長の挨拶にもあったように、タキイ種苗は昨年10月に熊本研究農場を開設したが、旦下順調に軌道に乗っているようです。そこの農場長に抜擢された星野博氏は農政通としても知られており、この日の演題もそれにふさわしいものであった。

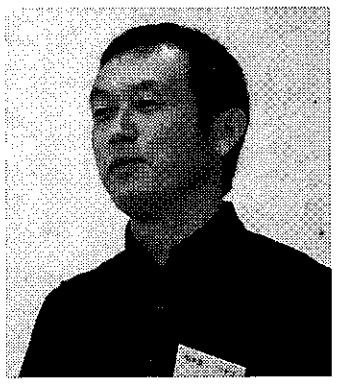
「本日は暑い中というよりも酷暑の中をご参集くださいましてご苦労様です。私がこういう席で話をするということは予想していたわけではありません。ただ、ただいま坂本さんが日本農業は種からというお話をされましたけれども、まさしくそのような事態が起こっております。

群馬県の嬬恋といえばキャベツとかレタス、その他キュウリなどでもよく知られておりますけれども、現に環境制御型のトマトを関東の方でやってくれているけれどもうまくいかないということでヒートポンプを入れるともっと設備投資をすればよくなるわけですが、後の祭りで、それをやるようにするには電気代が大変だとか、ヒートポンプでは無理だから細霧冷房でも入れなければいけないということで、野菜作りも大変のようです。

私はこれからお話をする種だけでの対応はとても無理な状況のようで、葉面散布だとか被覆資材、遮光資材等を合わせ持ったものでないと品種の力だけでは解決できないと思います。

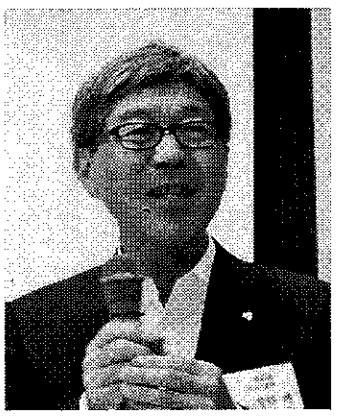
やっぱり、種と資材、それに技術の3つが1つになってはじめて乗り切れる時代がますますやってきているようで、だからこそエース会の意義があるなと思いますと述べ、本題に入った。

## 上村会長が勇退
### 新会長に池田敏郎氏（八代市・イチゴ）


新会長に選出された
池田敏郎氏
（八代市・イチゴ）

冒頭に、九州エース会の会長上村氏から勇退の意向が出ており、それについて検討しておりましたが、池田敏郎氏（八代市、イチゴ）の声がかかり大変恐縮した次第であります。

## 活発に情報交換
### 明年の全野研熊本大会に期待


講演する星野博タキイ
種苗熊本研究農場長

講演に続いて第2部情報交換が行われた。

これの司会は鈴木親久氏で、出席者が自己紹介した後、栽培における課題・問題点、あるいは自分が体験・工夫した事柄について述べたのに続き、資材に対する要望などについて活発に体験などが公開した。

18時から、ホテルメルパルク熊本の「立田」において開催され、会員の交流がなごやかに行われた。

## 第8回農業ワールド
### 10月10日から幕張メッセで

エース会九州交流会が行われた7月25日に早くも熊本県八代市地方ではトマトの接ぎ木が始まったようで、そのせいか出席者は例年よりも少ないようだった。上村前会長も26日は午後から接ぎ木をする段取りになっているからと急いで帰られた。（田辺正美さんも接ぎ木のために欠席）

農業に関するあらゆる商品を展示する第8回農業ワールド（主催＝リードエグビジョンジャパン㈱）が10月10日（水）から12日（金）の3日間にわたり千葉県の幕張メッセにおいて開催される。

スマート農業や植物工場など最新の農業技術が展示される「次世代農業EXPO」、農業に関わる資材が一堂に展示される「農業資材EXPO」、加工・販売するための機器・サービスが集まる「6次産業化EXPO」の3展で構成され、620社が出展して施設園芸、農業機械、土・肥料・土壌改良材など最新資材を中心に魅力的な商品のほか、熱中症対策や鳥獣害対策製品などの展示も行われる。

関連展示会として日本の食品輸出EXPO、フラワー&プランツEXPO、ガーデンEXPO、道工具・作業用品EXPOも同時開催される。

ホームページで無料招待券申し込み、出展社一覧、セミナー等の詳細情報を案内している。http://www.nogyoworld.jp

## 体験！発見！東北農研!!
### 東北農業研究センターが恒例の公開デー

農研機構東北農業研究センターは、9月8日（土）に毎年恒例の一般公開デーを開催する。「体験！発見！東北農研!!」をテーマに、企画展示（大規模水田農業の新技術）、成果展示（リンゴの品種と栽培技術）、ミニ講演会（ドローンの農業への本格的な活用が始まった稲作生産コストの園芸事情）、農業技術相談のほか、大型農業機械の展示と実演を行う。

このほか東北農研が開発した新品種等の試食（ピザ・中華麺・牛肉の煮物・リンゴジュース・ポン菓子）や、ロールお絵かき、タマネギクイズ、羊とのふれあいなどの楽しい体験イベント、農業関係書籍や食料品の販売もあり、家族連れでの来場も歓迎している。

開催日時は9月8日（土）9時半～15時半、場所は農研機構東北農業研究センター（岩手県盛岡市下厨川字赤平4）で、無料駐車場あり。入場料も無料となっている。